

CSR Report 2019

未来を描き、夢をかなえる

THE SHIGA BANK, LTD.
Corporate Social Responsibility 2019



SHIGA BANK

未来を描き、夢をかなえる

サステナビリティビジョン(長期ビジョン)
統合報告書/P24

地域とともに、 地域社会の未来をデザインする

滋賀銀行は、琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として、従来から「環境経営」に力を入れてきました。環境対応型金融商品やサービスの開発・提供など、金融の役割を通じてお客さまの環境への取り組みをサポートし、持続可能な地球環境づくりに取り組んでいます。世界は今、気候変動リスクや海洋汚染など地球規模での環境問題に加え、誰もが将来的にも安定した暮らしを営めるように持続可能な発展が求められており、当行の取り組みは国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)と同じ視線を持っています。

持続可能な地域社会の創生を目指す当行は、2019年4月にスタートさせた第7次中期経営計画(2024年3月まで)で初めて、サステナビリティビジョン(長期ビジョン)を掲げました。目指すべき地域社会の姿を「自分らしく未来を描き、誰もが幸せに暮らせる社会」と定め、地域との共創による持続可能な社会の実現にまい進する覚悟です。そのために、今次中計のメインテーマは「未来を描き、夢をかなえる」とし、当行が目指す姿を「Sustainability Design Company」としました。地域の皆さまと共に地域社会の未来をデザインし、「Bank」の概念を超えて地域にならない「Company」になるとの決意を込めています。

サステナビリティビジョンでは、「地域経済の創造」「地球環境の持続性」「多様な人材の育成」の3つを取り組むべき重点項目と捉えています。経済と環境、人を結んで統合的発展につなげることで、経済的価値と社会的価値を創造し、両立させて「共有価値」を生み出し、地域社会の発展に尽力してまいります。

本「CSRレポート2019」では、地域とともに持続可能な未来を切り拓くためのさまざまな取り組みを紹介しています。皆さまには、是非ご高覧賜りますとともに、当行のCSR活動に対してより一層のご支援をお願い申し上げます。

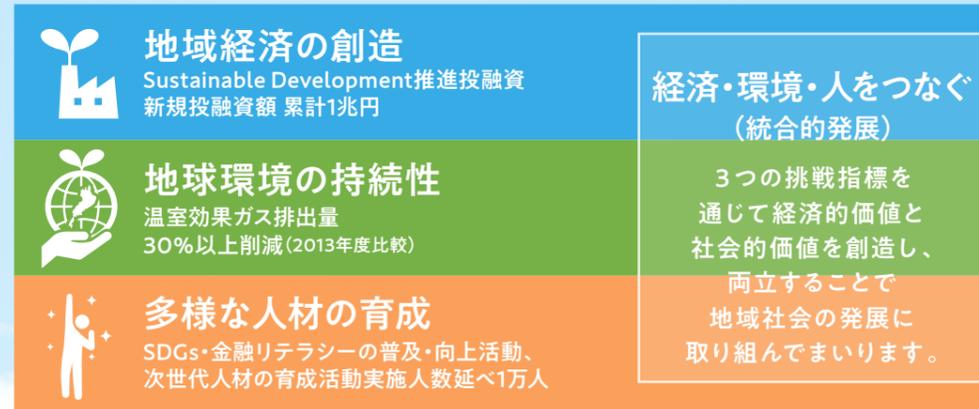
以上



取締役頭取
高橋 祥一郎

社会起点

2030年のマイルストーン(ターゲット2030)



CSR憲章(経営理念)

「地域社会」「地球環境」「役職員」との共存共栄

目指すべき地域社会の姿

自分らしく未来を描き、誰もが幸せに暮らせる社会



*パラダイムシフトとは、その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが、革命的もしくは劇的に変化する事。

自分起点

時間軸

Sustainability Design Company

持続可能な地域社会を皆さまとともに



アウトサイド・インのビジネス創出をサポート 滋賀SDGs× イノベーションハブ

2018年10月に設立した産官金連携の組織。課題解決型ビジネスに取り組みたい方の事業化サポートを実施しています。



付加価値の高い金融サービスを提供

「TSUBASA アライアンス」 に参加

地域の持続可能な成長を実現するため、2019年5月に参加。より多くの金融機関と連携することで、地域金融機関を取り巻く環境変化など共通する課題に対して、ノウハウや情報を共有することが可能になりました。



「誰ひとり取り残さない」 LGBTへの取り組み

住宅ローンのお申込みにおける「配偶者」に「同性パートナー」を含める取り組みを開始しました。誰もが不自由なく、ありのままに生活を営むことができる地域づくりを目指します。



SDGsに貢献する社会的課題解決型 ビジネスを幅広く応援 SDGsビジネス・ マッチングフェア

これまで開催の「エコビジネスマッチングフェア」を、2019年度は「SDGsビジネス・マッチングフェア」に拡大。1,519名が来場され、935件の商談が行われました。



世界の子どもの命と健康を守るために 「ユニセフ外国コイン」 募金活動

ユニセフの活動資金となる「ユニセフ外国コイン」募金活動を全店で実施。皆さまにご協力いただいたコインを、公益財団法人滋賀県国際協会を通じて公益財団法人日本ユニセフ協会に寄贈しています。



地域福祉の向上を願って しがぎん福祉基金

「当行を支えていただいている地域の皆さまに何とお礼がしたい」との思いから、創立50周年(1984年)に「社会福祉法人しがぎん福祉基金」を設立。滋賀県内で展開される福祉の実験的・開拓的な取り組みに対して、幅広く助成を行っています。

累計490件
3億6,713万円助成
(2019年5月末実績)



魅力ある町での生活をサポート 移住促進ローン

魅力ある町への移住・定住を促進し、地域の人口増加を目指す取り組みとして2016年より取扱開始。移住を希望される方が利用しやすいよう、勤続1年未満のお客さまについても個別に対応します。

豊かで深みのある 地域文化 の創造・育成

当行は、「株式会社しがぎん経済文化センター」と連携し、地域経済の活性化と文化の振興を願って、さまざまな情報発信や文化事業を行っています。



県内スポーツ振興を通じて地域を活性化 『しがぎん』スポーツ応援定期 未来リーと

お預入れいただいた定期預金残高の0.005%相当額を、滋賀県ゆかりのアスリートを応援する「レイクス・スポーツファンド」へ寄付しています。

累計
570万円
贈呈



青少年育成 をサポート

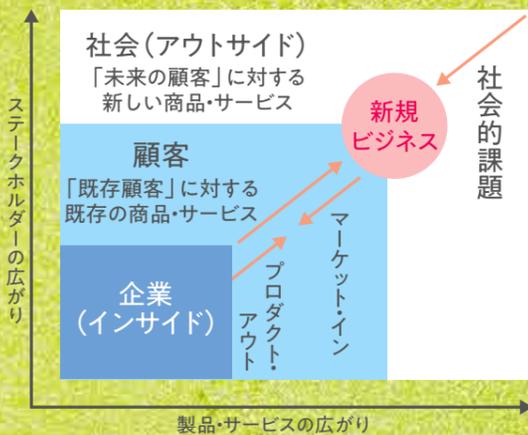
当行創立60周年を機に、青少年の健全な育成と地域共感を目的として、小学生対象の滋賀県内最大のサッカー大会「しがぎんカップ(滋賀県サッカースポーツ少年団選手権大会)」への協賛を続けています。



地域経済の創造

地域の課題を解決する新たなビジネスモデルを創出し、地域の魅力を育み、人と街とが成長する豊かな地域経済を創造します。

「アウトサイド・イン」の考え方で 持続可能な地域社会を創造する



「アウトサイド・イン」とは、社会的課題を起点として、その解決のために必要となるビジネスを生み出すアプローチ手法です。当行は、この「アウトサイド・イン」のアプローチによって新たなビジネスモデルを創出していくことで地域の社会的課題が解決でき、地域社会の持続可能な発展につながると考えています。

持続可能な社会づくりに貢献する事業創出をサポート ニュービジネスサポート 資金(SDGsプラン)

統合報告書/P38

24件
4億円
突破
2019年7月末実績



近江麦酒
「クラフトビール」



奥村佃煮
「y.ff~耐寿しxつやこフロマージュ~」

SDGsに貢献する新規ビジネスに取り組むお客さまの資金繰りや設備投資を支援しています。

サステナブルな農業ビジネスの普及 GAP認証取得を サポート

農業の発展による地域の経済・産業振興を目的に、西日本旅客鉄道株式会社と株式会社ファーム・アライアンス・マネジメントと連携し、GAP認証の普及および取得を促進しています。



当行の重点取組項目

新産業の創出



少子高齢化・人口減少



事業承継



地域資源の活用



生産性向上



防災(レジリエントな社会づくり)



空き家対策を 金銭面からサポート

地方創生への取り組みの一環として、彦根市が策定する「彦根市空き家等対策計画」に賛同。「彦根市空き家バンク」に登録された空き家の全改築・リフォーム等にかかるお借入に対して、通常のご融資利率から一定の金利を引き下げます。

地域ブランドの魅力向上をサポート

クラウドファンディング

クラウドファンディングの手法を活用し、地域ブランドの魅力向上や地域資源を活用した新商品・サービスの提供に取り組む事業者をサポートしています。



卯山製陶「とう器(とうき)」

新たな地域特産品の開発をサポート

しが6次産業化ファンド

当行は、県内金融機関としがぎんリース・キャピタル株式会社、農林漁業成長産業化支援機構と共同で、「しが農林漁業成長産業化投資事業有限責任組合(しが6次産業化ファンド)」を設立。滋賀県を中心とした農林漁業の成長産業化による地域経済の活性化に努めています。

産学官金の連携で、ニュービジネスのヒントを提供

サタデー起業塾

受講生の優れたビジネスプランを表彰する「しがぎん野の花賞」のほか、社会的課題解決を起点としたビジネスプランを表彰する特別賞「SDGs賞」を2017年度に新設しました。



SDGsの普及拡大と社会的課題解決に幅広く貢献

SDGs私募債『つながり』

2018年9月に「CSR私募債『つながり』」をリニューアル。「地域の社会的課題解決に向けた活動資金」の寄付を選択肢に加えたことにより、持続可能な社会の実現につながる取り組みを、より幅広く柔軟に支援することが可能となりました。



SDGs私募債のしくみ 2019年7月末実績

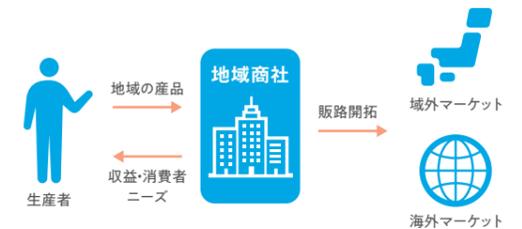


※発行金額の0.2%相当額の物品または活動資金を当行が寄贈

TOPIX 統合報告書/P39

地域商社構想プロジェクト

第7次中期経営計画の長期ビジョンに掲げる「地域との共創による持続可能な社会の実現」を目指し、2019年5月にスタート。より主体的にお取引先や地域との連携を深めていきます。



地球環境の持続性

金融の役割を通じて「経済・環境・社会の好循環」を確立し、自然と共生する循環型社会を創造します。

当行の重点取組項目

気候変動への対応



脱炭素・省エネ



琵琶湖の水質保全



生物多様性保全



環境金融

「お金の流れで地球環境を守る」との気概で、本業による環境保全の取り組みを実施。

P.09-10

環境経営サイクル

エコオフィスづくり

銀行内の省資源・省エネルギー活動を推進。

P.08

環境ボランティア活動

地域の環境ボランティア活動に積極的に参加することで、環境意識の高い人材を育成。

P.12

環境方針 (抜粋)

- ① 省資源・省エネルギー活動
- ② 金融サービスを通じた環境保全
- ③ 環境関連法規等の順守
- ④ 全員参加と啓発
- ⑤ 環境方針の公開

生物多様性保全方針 (抜粋)

- ① 役職員自らが生物多様性保全の活動を展開
- ② 地域の皆さまとの連携によるネットワークづくり
- ③ 環境対応型金融商品・サービスの充実

エコオフィスづくり

「滋賀銀行 環境方針」のもと、営業活動に伴う電力や紙使用量の削減、グリーン購入・リサイクル・エコスタイル・エコ店舗など、省エネ・省資源活動に努めています。

節電対策

前年度比 (電力使用量)



「しがぎんエコスタイル」(夏季5月～10月、冬季12月～3月)の実施や空調管理、営業室・共有部分の照明の間引き、OA機器の節電、早帰りの励行を実施。

グリーン購入

製品やサービスを購入する際に、必要性・環境を考慮して購入。



環境対応車への切替



行内リサイクルシステム



行内の機密書類等を全店から集めて破砕処理し、再生紙工場にてトイレットペーパーに再生。

カーボンニュートラル店舗でCO₂排出量 実質 0

- 太陽光発電電量
- 照明電力量
- 屋外電気使用量
- 営業車CO₂排出量
- 空調換気電力量
- コンセント電気使用量



エコ通勤の促進

2011年よりエコ通勤優良事業所の認証を取得。



バイオディーゼル車導入

地域内資源循環の取り組みを促進。



※ 2018年度の実績を記載しています。

環境会計 ～環境と経済の両立に向けて～

当行は、環境保全への取り組みを効率的かつ効果的に推進しています。そして、事業活動における環境保全のためのコストと、その活動により得られる保全・経済効果を公表しています。

WEBでチェック <https://www.shigagin.com/csr/report/>

TOPIX

通帳は紙からスマホへ!

2019年3月、当行と初めてお取引引きいただく個人のお客さま向けに、スマートフォンで普通預金口座の開設申込ができる「滋賀銀行アプリ」の取り扱いを開始しました。そのほか、預金口座の入出金明細や残高情報などをアプリを通じてご確認いただける「滋賀銀行デジタル通帳」の取り扱いも開始。FinTechを活用した新たなサービスの提供により、お客さまの利便性向上および省資源化に努めてまいります。



ISO 14001 × SDGs

ISOで目指す 環境保全・経営向上

2000年に認証を取得してから19年間、当行独自の環境マネジメントシステムを運用しています。毎年、一般財団法人日本品質保証機構(JQA)による審査を受けており、2016年度には新規格:2015年改訂版への対応を行いました。本年度のISOの取り組みでは、サステナビリティビジョン(長期ビジョン)の実現に向けた取り組みを環境目標に設定。ISOで経営計画のPDCAを回し、環境保全の取り組みを業務効率化・生産性向上につなげてまいります。



ISO 14001 の成果

環境金融

当行は、環境対応型金融商品・サービスの開発・提供等、「金融」の役割を通じてお客さまの環境への取り組みをサポートし、持続可能な地球環境づくりに努めています。これからも、「お金の流れで地球環境を守る」との気概で「環境金融」を進めてまいります。

エコ預金で琵琶湖の生物多様性を守る

ダイレクトチャネル(ATM、電話、インターネット)でお預入れいただく「エコプラス定期」(2003年~)や、「ネット投信」の「電子交付サービス」(2013年~)をご利用いただくことによる紙資源削減相当額を当行が拠出し、滋賀県内の小・中学校へ「学校ビオトープ」づくりの資金として2016年度まで毎年助成。2017年度からはニゴロブナ・ワタカの放流資金として拠出しています。

お客さま	しがぎん	小・中学校、琵琶湖 等
預けてよし 金利がプラス 	預かってよし 紙使用量を削減 	世間・環境によし ビオトープづくり ニゴロブナ・ワタカの放流

ビオトープ(2003~2016年度累計) **35件 1,679万円**を助成
 ニゴロブナ・ワタカ(2007~2018年度累計) **63.5万匹**
※2016年度までは「カーボンニュートラルローン未来よし」より拠出

びわ湖環境ビジネスメッセ2018に出展

環境産業の育成振興を目的とした「びわ湖環境ビジネスメッセ2018」に出展。当行は、「SDGsで創る未来 - 地域とともに歩む『しがぎん』-」をテーマに、映像やクイズを用いて、貧困などの社会的課題について「身近な問題」として考えていただくきっかけづくりを行いました。当行の取り組みの展示も行い、3日間で約600名もの皆さまにご来場いただきました。



SDGsビジネス・マッチングフェア 詳しくは、P3へ

CSR委員会

CSR経営の中長期計画や毎年度の取組内容等を組織横断的に協議するため、頭取を委員長とする「CSR委員会」を年3回開催。CSR経営の一層の充実・強化を図っています。



地球温暖化防止 生物多様性保全



持続可能な社会へ
 地域社会・地球環境との共存共栄

独自の環境格付で環境を守る

琵琶湖を中心とした地球環境保全を目的に「しがぎん琵琶湖原則 (PLB=Principles for Lake Biwa)」を独自に制定。ご賛同をいただいたお取引先に対し、ご希望がある場合は当行独自の「環境格付 (PLB格付)」を実施。環境経営の取り組み度合いについて、15の評価項目を3段階で評価します。環境経営に対する「気づき」のツールとしてご活用いただいています。

しがぎん琵琶湖原則 (PLB) の3原則

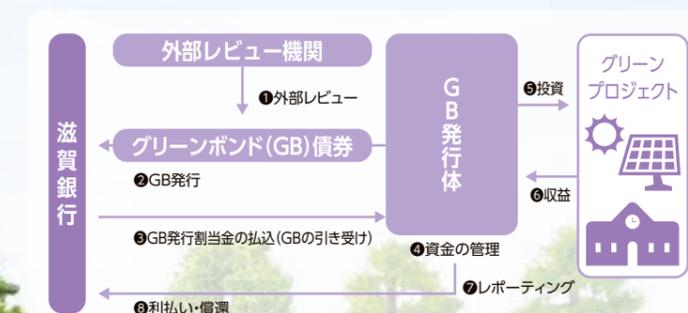
1 環境保全に役立つ生産・販売・サービス基準を策定します。	2 環境配慮行動とビジネスチャンスの両立を目指します。	3 環境リスクを軽減し、持続可能な地域社会を実現します。
① 賛同 11,259件 <small>(事業先比60.3%)</small>	② 格付 PLB格付 10,874先 <small>(事業先比58.2%)</small> PLB格付BD 5,953先 <small>(事業先比31.9%)</small>	③ お借入 PLB資金実行件数 1,883件 PLB資金実行額 総額 371億円 <small>(2019年3月末実績)</small>

投資を通じて社会的課題解決に貢献

ESG(環境・社会・ガバナンス)やSDGsに配慮した社会貢献型の債券などへの投資に取り組んでいます。

- ・JICA債「国際協力機構債券」
- ・「日本学生支援債券」
- ・「低炭素日本株ファンド」など

私募型グリーンボンド引受け 統合報告書/P35



多様な人材の育成

多様な個性を尊重し、一人ひとりが持てる力を最大限に発揮できる職場づくりを進めています。また、地域の未来を担う人材の育成に努めています。

地域に広げる持続可能性の輪

子どもワクワクワンダーランドに出展

2019年6月に矢橋帰帆島公園で行われた、「スプリングフェスタin 矢橋帰帆島公園～子どもワクワクワンダーランド～」に出展。SDGsをテーマにした輪投げのほか、「おこづかい通帳」をプレゼントしてお買いものを体験。ゲームを通してお金の使い方を学んでいただきました。



中学生チャレンジウィークに協力

2015年度より津市内の中学生(2年生)を対象とした職場体験「中学生チャレンジウィーク」の提携企業となり、銀行業務の職場体験を受け入れています。普段は味わうことができない銀行員体験を通じて「仕事観」を醸成するとともに、将来必要となるマナーを身につける機会を提供しています。



小学校でSDGs教育



2019年2月、津市立唐崎小学校で「SDGsってなに?～自分ごとで考えよう～」と題したSDGsの出前授業を行いました。動画やイラストを用いてSDGsとは何かを学んでもらうとともに、身近なゴールを例に挙げ、世界の子どもたちが置かれている現状に対して自分たちにできることは何かをみんなで考えました。

金融リテラシーの向上

2019年4月、滋賀医科大学にて「金融経済教育講座」を開催。講座では、金融や経済の仕組み、家計管理やライフプランニングについて説明しました。受講者からは、「もっと金融知識を身に付けていきたい」などのご意見をいただきました。



スキルの向上

階層別・職務別研修、ゆとりプランセミナー(自由参加型行員向けセミナー)

行内人材公募制度

ICT戦略構築、コンサルティング部門、女性法人外交、グローバル人材の育成

「課題解決型人材」の育成

・行内コンサルティング研修
・各種資格取得サポート

人材育成

ポジティブ・アクション

女性管理職比率

26.74%



2019年3月末現在

〈人材育成方針〉
お客さまから必要行員の育成
地域社会とされる育成

統合報告書/P60

内部通報窓口設置

・コンプライアンスヘルプライン
・弁護士相談制度

BCP(事業継続計画)制定

危機管理や防災等に関する規程等を整備するとともに、訓練・教育を実施。業務を円滑に継続できる体制を構築しています。

コンプライアンス

ダイバーシティの推進

働き方改革

子育て支援制度

・働くパパママ応援セミナー
・配偶者出産特別休暇制度
・育児復帰後セミナー



2016年4月
近隣の地方銀行で
初めて取得

メンタルヘルスケア

・ストレスチェックの実施
・外部カウンセリング制度



健康

当行の重点取組項目

ダイバーシティの推進			働き方改革		
5 シンボルマークを 実用しよう	10 人の個性を 活かそう	16 労働と生活を すべてに	3 すべての人に 健康と福祉を	8 働きがいも 経済成長も	
人材育成			健康		
4 高い思いやりを みんなに	5 シンボルマークを 実用しよう	8 働きがいも 経済成長も	1 健康を なごそう	2 健康を ゼロに	3 すべての人に 健康と福祉を
コンプライアンス					
5 シンボルマークを 実用しよう	12 働きがいも 経済成長も	16 労働と生活を すべてに			

環境ボランティア活動

ヨシ苗植え

ヨシ刈り

琵琶湖の生物多様性・環境を守る “いきものがたり”活動

魚の産卵場所であるヨシ群落を守り・育て、琵琶湖の固有種で絶滅危惧種のニゴロブナ・ワタカを保護・育成・放流し、侵略外来魚を駆除するなど、滋賀県ならではの“いきものがたり”活動を展開しています。この活動は、環境リテラシーの高い人材の育成にもつながっており、活動は年々広がっています。

外来魚駆除・釣り

ニゴロブナ・ワタカの放流

名刺に生まれ変わるよ!



ヨシ刈りボランティア

50.7
万枚利用
15,234kl
浄化



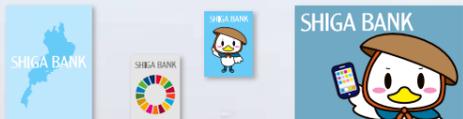
ニゴロブナ・ワタカ放流式



森づくりサポート活動



外来魚駆除・釣りボランティア



今までもこれからも、みなさまとともにつくる豊かな未来。

1984 社会福祉法人
しがぎん福祉基金設立



1985 日本列島クリーン
大作戦に参加



1988 水質調査船(みずすまし2世)建造費として
滋賀県に1億円寄付

1992 ボランティア預金
「愛のみずうみ口座」取扱開始

1994 リサイクルシステム稼働

1998・「エコ・クリーン資金」取扱開始
・ノベルティグッズをグリーン購入品へ
・全店の焼却施設を撤去

1999・「クリーンバンクしがぎん」スタート
・「環境委員会」設置
・「環境方針」制定

2007・「CSR憲章(経営理念)」と「滋賀銀行の行動規範」制定
・「カーボンニュートラルローン未来よし」取扱開始
・環境に配慮した「エコメール」導入
・環境会計を導入
・営業統轄部にCS推進室を設置

2008・「エコビジネスマッチングフェア」開催
・「カーボンオフセット定期預金『未来の種』」
取扱開始
・「事業者向け環境配慮型融資『未来の芽』」
取扱開始
・「ヨシ紙名刺」利用開始
・しがぎん浜町研修センターが
「CASBEE」Sランクを取得
・「エコ・ファースト企業」
に認定
・「AED」を
全店に設置
・「ワークライフバランス推進企業」に登録



2006・「女性活躍推進委員会」スタート
・「事業者向けBCPサポートローン」取扱開始
・「エコプラス定期」による学校ビオトープ助成開始

2005・「エコ&耐震住宅ローン」取扱開始
・「琵琶湖原則支援資金」取扱開始
・「エコスタイル」キャンペーン開始



2004 「CSR委員会」「CSR室」設置

2003・「エコプラス定期」取扱開始
・「土壌汚染対策法」取組指針を策定
・創立70周年記念事業「びわこ地球市民の森」で植樹

2002 ニュービジネスネットワーク「野の花応援団」創設

2001 「UNEP金融機関声明」署名

2000・「ふれあい環境室」設置
・「ISO14001」認証取得



2009・「琵琶湖原則支援資金(環境省利子補給活用プラン)」取扱開始
・「生物多様性格付」運用開始

2010・「環境方針」改定
・「生物多様性保全方針」制定
・「成長基盤強化応援ファンド」設立

2015・「カーボンニュートラル店舗(栗東支店)
グランドオープン



・金融教育「中学生チャレンジウィーク」開始
・「しがぎんふるさと投資ファンド」設立

2014・滋賀県と「地域密着連携協定」締結
・「しがぎん成長戦略ファンド」設立
・「しが6次産業化ファンド」設立
・「CSR私募債『つながり』」取扱開始
・「『しがぎん』スポーツ応援定期 未来リーと」取扱開始



・環境省より「エコ・ファースト企業」に再認定
・清水書院発行の高等学校「現代倫理」の
教科書に当行のCSR活動が掲載
・創立80周年記念事業「ピワマス週上プロジェクト」実施

2013・営業統轄部に「地域振興室」を設置
・「BCPサポートローン(災害対策プラン)」取扱開始
・創立80周年記念事業
「びわこ地球市民の森」で植樹



2012 2012年版「環境白書」に「いきものがたり」が活動掲載

2011・「滋賀の魅力発信ファンド」設立
・「スピードローン ジャストサポート(災害復旧プラン)」取扱開始
・「BCPサポートローン(震災影響対策プラン)」取扱開始
・「21世紀金融行動原則」に署名



2019・「SDGsビジネス・マッチング
フェア」開催
・「TSUBASAアライアンス」
に参加
・「地域商社構想プロジェクト」
を開始
・「エコ・ファースト企業」に
再々認定
・TCFDコンソーシアムに参加

2018・ニュービジネスサポート資金
(SDGsプラン)取扱開始
・ニュービジネス奨励金
「SDGs賞」新設



・SDGs私募債、SDGs医療機関債
取扱開始
・気候変動イニシアティブに参加
・地方創生SDGs官民連携
プラットフォームに参加

2017・本業支援サポートローン
「GAP認証者サポートプラン」取扱開始
・関西SDGsプラットフォームに参加
・「しがぎんSDGs宣言」を表明



2016・「CSR医療機関債『はぐくみ』」取扱開始
・「イクボス宣言」実施

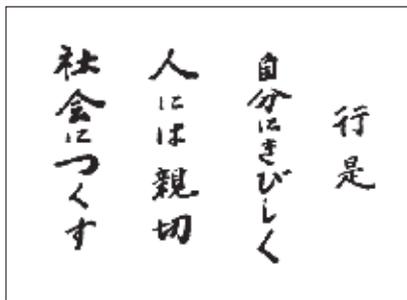


・次世代育成支援対策推進法に基づき
「プラチナくるみん」に認定



CSR Report 2019

THE SHIGA BANK, LTD.
Corporate Social Responsibility 2019



行是の心

近江商人の経営哲学である「三方よし」の精神を原点とした行是。役職員一人ひとりが、社会の一員であることの自覚を持ち、常に自分自身を戒め律し、社会へ感謝し、本業を通じて社会に貢献する。この心を受け継ぎ、これからも地域の皆さまとともに未来を創ってまいります。

行是(1966年制定)

編集方針

滋賀銀行は、2016年度から「統合報告書(ディスクロージャー誌)」を発行し、これまでの「CSRレポート」(非財務情報)の要素を「統合報告書」へ統合しました。そして「CSRレポート2019」は、その簡易版として作成しています。本レポートは、国際標準化機構のISO26000が提示する主題を参考に、当行の「CSR憲章(経営理念)」である「地球環境」「地域社会」「役職員」との共存共栄の各テーマを軸に、写真や図表などを用いて内容をよりわかりやすく編集しています。財務面及びその他詳細な情報につきましては、統合報告書(ディスクロージャー誌2019)、またはホームページ(<https://www.shigagin.com>)をご覧ください。

本誌の内容をもっと詳しく知りたい方は

対象組織

- ・株式会社滋賀銀行
- 【関連会社】
- ・しがぎんコンピュータサービス株式会社
- ・しがぎんビジネスサービス株式会社
- ・株式会社しがぎん経済文化センター
- ・株式会社滋賀ディーシーカード
- ・しがぎんリース・キャピタル株式会社
- ・しがぎん代理店株式会社
- ・株式会社しがぎんジェーシービー
- ・しがぎんキャッシュサービス株式会社
- ・滋賀保証サービス株式会社

発行 / 2019年9月
お問い合わせ / 滋賀銀行 総合企画部CSR室
〒520-8686 大津市浜町1番38号
電話 077-521-2207
<https://www.shigagin.com>

公式SNSでも、様々な情報を発信しています。



LINE ID : @shigagin



Facebookアドレス : <https://www.facebook.com/shigagin>



当行は、環境省認定「エコ・ファースト企業」です。



当行は、気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています。



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C022337